



【資料02-1】 農業施設(食品加工、その他)






【凡例】 ○※1更新(建替え)伴う ○※2防災補強・耐震確保伴う ○※3費用対効果対策を伴う ※施設所管方針  
 定量的評価: A:維持継続 B1:安全性改善 B2:維持継続 C:改廃検討

No.	財産分類 (小)	施設名	所在地	政策 優先 度	定量的 評価 (施設 一次 評価)	建築 年 (経過 年)	延床 面積	配置 運営 形態	機能	対象 利用 者の 範囲 区分	(H30~R2年度)			方策パターン							施設情報			
											収入平均 3年平均 (千円)	支出平均 3年平均 (千円)	年度利用 者数合計 3年平均 (人)	集約化	複合化	転用	施設 規模 の縮小 (減築)	民間 施設 の活用	実施主 体・管 理運営 主体の 変更	現状 維持 (更新)		廃止 (売却/ 譲渡/ 跡地 活用)		
1	農業施設 農業生産施設	ふれあい両津農村婦人の家 	両津	高	C	1978 (45)	242		共同学習室 (大・小) 食品加工室 談話室	全域 広域	33	184	0	○※1、 △	○※1、 △	○	○※1			○	○	総	・食品加工室の使用が多い。使用は月1回程度。 ・耐用年数も過ぎており、利用率も低い ため、近隣施設で代替できるのであ れば、廃止も視野に入れる。また、 利用者等との意見交換・協議を行い、 譲渡の可能性についても検討する。	
2	農業施設 農業生産施設	両津特産品開発加工センター 	両津	—	C	2005 (18)	56			地域 地区	42	152	0				○※1、 ※2				○	○、 総、個	・休止中 ・現在は利用者がいないため、水道・ 電気・ガスを止めている。 ・個別対応策は廃止。施設の活用及 び跡地利用を含めて利用団体とは調 整済み。	
3	農業施設 農業生産施設	金井農産物処理加工センター 	金井	高	C	1988 (35)	164			地域 地区	0	0	0	○※1、 △	○※1、 △	○				○	○	総	・利用は特定団体に限られているが、 継続的な利用がある。 ・利用者等との意見交換・協議を行 い、譲渡の可能性についても検討す る。	
4	農業施設 農業生産施設	大佐渡交流活性化センター 温室ハウス 	佐和田	—	C	2004 (19)	546		温室ハウス	地域 地区	0	338	0				○※1			○	○、個	総	・バラ園として使用。 ・民間譲渡やバラ園以外の使用方法 を検討中。 ・民間譲渡を基本的な考え方として 整理し、総量削減を図る。	
5	農業施設 農業生産施設	真野農産物集出荷貯蔵施設 	真野	高	B2	1991 (32)	369			地域 地区	45	1,132	0	○※1	○※1					○※2、 ※3	○	○	総	・JA佐渡に委託し、農産物集出荷施 設として使用。 ・耐用年数期間が満了し、施設の老朽 化もあるため、改修や廃止など検討 する。 ・利用者等との意見交換・協議を行 い、譲渡の可能性についても検討す る。
6	農業施設 農業生産施設	真野活性化センター (いぶき21) 	真野	高	C	2001 (22)	998		多目的集会 施設 会議室	全域 広域	183	927	9,466	○※1、 △	○※1、 △	○				○※2	○	○	総	・ゲートボールや野球などの運動利 用とイベントでの使用が多い。 ・利用者等との意見交換・協議を行 い、譲渡の可能性についても検討す る。

	【資料02-1】 農業・水産・商工全体	食品加工・その他
総延床面積	5,028	2,375
着色延床面積	3,350	972
削減率	66.6%	40.9%

農業施設(農園)






【凡例】 ○※1更新(建替え)に伴う ○※2防災補強・耐震確保に伴う ○※3費用対効果対策を伴う ※施設所管方針  
 定量的評価: A:維持継続 B1:安全性改善 B2:維持継続 C:改廃検討

No.	財産分類 (小)	施設名	所在地	政策 優先 度	定量的 評価 (施設 一次 評価)	建築 年 (経過 年)	延床 面積	配置 運営 形態	機能	対象 利用 者の 範囲 区分	(H30~R2年度)			方策パターン							施設情報		
											収入平均 3年平均 (千円)	支出平均 3年平均 (千円)	年度利用 者数合計 3年平均 (人)	集約化	複合化	転用	施設 規模 の縮小 (減築)	民間 施設 の活用	実施主 体・管 理運営 主体の 変更	現状 維持 (更新)		廃止 (売却/ 譲渡/ 跡地 活用)	
7	農業施設 農業生産施設	中原地区お楽しみ農園 	佐和田	-	-	1992	0		土地のみ	全域 広域	34	92	8	△	△					○	※	・10区画/18区画 使用されている。	
8	農業施設 農業生産施設	長木地区お楽しみ農園 	佐和田	-	-	2004	0		土地のみ	全域 広域	106	377	33	△	△					○	※	・33区画/36区画 使用されている。	
9	農業施設 農業生産施設	真野ふれあい農園 	真野	-	-	1993	0		土地のみ	全域 広域	0	0	15	△	△					○	※	・19区画/27区画 使用されている。	
10	農業施設 農業生産施設	城の山ふれあい農園 	赤泊	-	-	2003	0		土地のみ	全域 広域	0	0	7	△	△					○	※	・5区画/14区画 使用されている。	
11	農業施設 農業生産施設	榎の木園場借地 	赤泊	-	-	1991	0		土地のみ	地域 地区	0	0	0						○	○	○※2	○、総	・R3から生育した榎の木を配布して おり、配布が完了次第、事業を終了す る見込み。 ・実及び材の加工品として、榎の木を 特産化。

	農業・水産・商工全体	農園
総延床面積	5,028	0
着色延床面積	3,350	0
削減率	66.6%	0.0%

農業施設(牧場)

【凡例】 ○※1更新(建替え)伴う ○※2防災補強・耐震確保伴う ○※3費用対効果対策を伴う ※施設所管方針  
 定量的評価: A:維持継続 B1:安全性改善 B2:維持継続 C:改廃検討

No.	財産分類 (小)	施設名	所在地	政策 優先 度	定量的 評価 (施設 一次 評価)	建築 年 (経過 年)	延床 面積	配置 運営 形態	機能	対象 利用 者の 範囲 区分	(H30~R2年度)			方策パターン							施設情報			
											収入平均 3年平均 (千円)	支出平均 3年平均 (千円)	年度利用 者数合計 3年平均 (人)	集約化	複合化	転用	施設 規模 の縮小 (減築)	民間 施設 の活用	実施主 体・管 理運営 主体の 変更	現状 維持 (更新)		廃止 (売却/ 譲渡/ 跡地 活用)		
12	農業施設 農業生産施設	二ツ岩牧場 	相川		-	1975	0		土地のみ	地域 地区	445	1,569	2,013								○※2	○、総	・島内繁殖農家が利用。 ・年間の委託期間は4月～11月。(牧場管理組合) ・牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)陰性牧場として位置づけ運用。次年度以降も同様に陰性牧場として運営し、アブ媒介による感染予防の措置を講じるため運営する。 ・預託可能頭数維持に必須。	
13	農業施設 農業生産施設	堂林放牧場 	金井	高	A	1990 (33)	68		管理舎 退避舎	地域 地区	2,001	5,722	8,531	△	△	○					○	総	・島内繁殖農家が利用。 ・堂林放牧場は基幹牧場として位置づけられており、牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)陽性牛を放牧。市営放牧場5牧場のなかで1番収容能力があり、牧容量も高いため継続して運営する。 ・預託可能頭数維持に必須。	
14	農業施設 農業生産施設	青木山牧場 	新穂	高	C	1972 (51)	103		看視舎 追込舎	地域 地区	541	3,803	2,591				○※1、 ※2					○、 総、個	・牧場までの道(市道及び林道)が整備されておらず、家畜車による牛の移動が不可能なため休牧中。また、今後も道路整備は見込まれないため、閉牧を検討中。(関係機関による市営放牧場あり方検討会において、反対意見はなし) ・預託可能頭数維持に必須。	
15	農業施設 農業生産施設	坪山牧場 	畑野	高/低	C	1974 (49)	79		管理棟 避難舎	地域 地区	521	2,070	2,193									○、 総、個	・島内繁殖農家が利用。 ・牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)陽性牛を放牧。次年度以降については、堂林放牧場の陽性牛の頭数、牧草の状況を見ながら併用で運営する予定。 ・預託可能頭数維持に必須。	
16	農業施設 農業生産施設	経塚放牧場 	真野	高	C	2004 (19)	127		管理棟 避難舎	地域 地区	545	2,475	2,251	○※1、 △	○※1、 △	○						○	○、 総、個	・島内繁殖農家が利用。 ・草地力が非常に悪く、雑草・毒草の侵入、裸地が多く散見される。今後、利用を検討するにあたっては、大掛かりな草地更新が必要であるため、費用効果を考えながら、次年度以降の運営については検討する。 ・預託可能頭数維持に必須。

	農業・水産・商工全体	牧場
総延床面積	5,028	377
着色延床面積	3,350	103
削減率	66.6%	27.3%

水産施設、商工施設

【凡例】 ○※1更新(建替え)伴う ○※2防災補強・耐震確保伴う ○※3費用対効果対策を伴う ※施設所管方針  
 定量的評価: A:維持継続 B1:安全性改善 B2:維持継続 C:改廃検討

No.	財産分類 (小)	施設名	所在地	政策 優先 度	定量的 評価 (施設 一次 評価)	建築 年 (経過 年)	延床 面積	配置 運営 形態	機能	対象 利用 者の 範囲 区分	(H30~R2年度)			方策パターン							施設情報					
											収入平均 3年平均 (千円)	支出平均 3年平均 (千円)	年度利用 者数合計 3年平均 (人)	集約化	複合化	転用	施設 規模 の縮小 (減築)	民間 施設 の活用	実施主 体・管 理運営 主体の 変更	現状 維持 (更新)		廃止 (売却/ 譲渡/ 跡地 活用)				
17	水産施設 漁業生産施設	佐渡海洋深層水利用施設 蓄養施設		畑野	高	-	2004 (19)	687		蓄養施設	地域 地区											○※2、 個	○、総	・島内漁業協同組合に所属する漁業者が利用。 ・ズワイガニや南蛮エビの蓄養や陸上養殖施設として利用希望は維持していくと思われる。最近では、県や漁業者と連携して海藻養殖の安定化に向けた研究分野での利用を開始しているため、施設の重要性が高まっている。		
18	水産施設 漁業生産施設	佐渡海洋深層水利用施設 蓄養棟		畑野	-	-	2004 (19)	175		蓄養施設	地域 地区	1,273	10,225	0								○※2	○、総			
19	水産施設 漁業生産施設	佐渡海洋深層水利用施設 エネルギー棟		畑野	-	-	2004 (19)	105			地域 地区											○※2	○、総			
20	水産施設 漁業生産施設	佐渡海洋深層水利用施設 製氷施設		畑野	-	-	2004 (19)	258			地域 地区	436 R3 777 R4 1161	3,498	0									○※2	○、総	・海洋深層水の利用拡大を図るため「海水水」を生産し、漁業者等に提供している。最近では海水水の特性(溶けにくい、よく冷える)が注目され、赤泊や小木の大型定置網組合が大量に利用するようになっていた。(収入増)	
21	商工施設	佐渡海洋深層水 分水施設		畑野	-	B1	2004 (19)	492	指定管理	海洋深層水 株	全域 広域	27	23,712	0	○※1、 △	○※1、 △							○	○	総	・主な大口利用として、新潟県佐渡海洋深層水(株)(ミネラルウォーター)、佐渡海洋物産(株)(塩)、さんばちの湯(海洋深層水風呂)などの事業利用。 ・飲料用などの個人利用。 ・小中学校や観光客から施設見学の要望あり。
22	商工施設	佐渡海洋深層水 取水施設		畑野	-	C	2003 (20)	100	指定管理		地域 地区	0	0	0									○※1	○、総	・1日あたり1,200㎡の深層水を取水し、分水施設及び水産施設(蓄養施設・製氷施設)へ送水している。 ・施設の老朽化が進んでいるが、当施設が停止すると分水施設及び水産施設の両施設の運営に影響が出ることから、設備の更新の優先度は高いと考えている。	
23	商工施設	両津地域活性化センター		両津	高	B1	1990 (33)	459		1F ㈱PRUM 2F HCC株	全域 広域	1,119	1,062	1	○※1、 △	○※1、 △							○	総	・寄与している。収支も黒字であることから、今後も継続して施設を運営していきたい。	

	農業・水産・商工全体	牧場
総延床面積	5,028	2,276
着色延床面積	3,350	2,276
削減率	66.6%	100.0%